

知って
安心!

日常生活に潜む 化学物質と その健康影響

日時

2025年7月5日(土) 10:00~11:30
(開場 9:30)

会場

沖縄タイムスビル 3F「タイムスホール」
〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地2-2-2

参加費

無料

参加申込

不要 (当日直接会場にお越し下さい)

= プログラム =

司会

黄 基旭 (東北医科薬科大学 教授)

講演1

食品中に含まれる
カドミウムによる健康影響

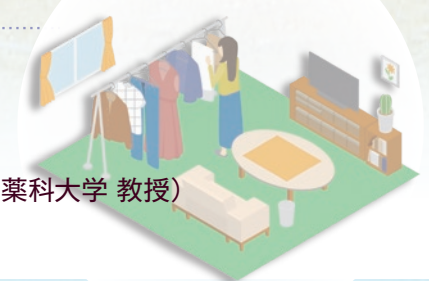
永沼 章 先生 (東北大学 名誉教授)



講演2

暮らしの中の化学物質

香川(田中) 聡子 先生 (横浜薬科大学 教授)



食品中に含まれる カドミウムによる健康影響

永沼 章 先生

(東北大学名誉教授)

食品中には多くの汚染物質が含まれていると考えられます。本講演会ではそれら汚染物質の中からカドミウムを取り上げて、その健康影響について解説させていただきます。

カドミウムは顔料、合金、メッキなどに利用されており、富山県神通川流域で1910年代から1970年代前半にかけて認められた公害病であるイタイタイ病（骨軟化症が主症状）の原因となった重金属です。イタイタイ病は、神通川の上流にあった鉱山会社から神通川に流出したカドミウムに汚染された水や米や野菜を長期間にわたって摂取していた人々の一部に発症した病気です。しかし、イタイタイ病はカドミウムの長期間多量摂取だけでなく、その他のいくつかの要因が加わって起こる特殊な病気で、カドミウム中毒患者に一般的に認められる病気というわけではありません。カドミウムによる一般的な慢性中毒症状は腎臓機能障害です。実験動物にカドミウムを長期間投与しても骨軟化症はほとんど認められませんが、腎臓障害は全ての動物に認められます。カドミウムは様々な食品中に含まれていますが、日本人が主食としている米に比較的高い濃度で含まれています。一般的な日本人が一日に摂取するカドミウムの約半分は米に由来します。そのため、米を多食する日本人の体内カドミウム濃度は欧米人よりも数倍高いと言われています。また、カドミウムは動物や魚介類の内臓中に米とは比較にならないほど高濃度に蓄積していますので、これらを沢山食べることを避けたバランスの良い食生活を心がけることが大切でしょう。

略歴

1975年 日本大学理工学部薬学科卒業
1981年 北里大学大学院薬学研究科博士課程修了、薬学博士
1982年 北里大学薬学部 助手
1985年 北里大学薬学部 助教授
1987~1989年 米国コーネル大学医学部生化学教室客員准教授
1994年 東北大学大学院薬学研究科教授
2008~2011年 東北大学大学院薬学研究科長・薬学部長
2016~2018年 日本毒性学会理事長
2017年 東北大学定年退職、名誉教授

所属学会

日本薬学会（有功会員）、日本毒性学会（名誉会員）

社会活動

Fundamental Toxicological Sciences 編集委員長
環境省 重金属等による健康影響に関する総合的研究 検討委員
(公財) 麻薬・覚せい剤乱用防止センター 理事
国立水俣病総合研究センター 研究評価委員

暮らしの中の化学物質

香川(田中) 聡子 先生

(横浜薬科大学 健康薬学科 教授)

化学物質は私たちの生活を便利で快適にする一方で、家庭で使用する化学製品は誤った使い方によって健康に悪影響を及ぼすことがあります。たとえば、混ぜてはいけぬ洗剤が誤って混ざることでは有毒ガスが発生し、最悪の場合、命に関わる危険が生じることもあります。また、芳しい香りは爽やかで穏やかな気分をもたらしますが、香料成分を含む製品を過度に使用すると、一部の人のにとっては頭痛や吐き気の原因になることがあります。

さらに、「天然成分」「自然」「無添加」といった言葉は、安全で健康に良いイメージを持たれがちですが、必ずしもそうとは限りません。たとえば、野菜のニラと誤ってスイセンの葉を食べてしまい、食中毒を引き起こす事故は毎年のように報告されています。「天然」のスイセンには有害な化学物質であるリコリンが含まれており、摂取すると嘔吐や下痢を引き起こす危険があります。また、スイセン以外にも沖縄県でよく見かける植物の中には、人体に有害な化学物質を含むものが存在します。さらに、海に生息する危険な生物もまた「天然」の存在です。

このように、化学物質に関する誤解や不注意によって健康被害が発生する可能性があるため、私たちの暮らしの中でそれらを正しく理解し、適切に使用・摂取することが重要です。本講座では、日常生活で起こり得る化学物質に関連する事故の事例を紹介しながら、化学物質と賢く付き合う方法についてお話ししたいと思います。

略歴

1983年 北里大学薬学部卒業
1986年 北里大学大学院薬学研究科博士課程中退
1986年 北里大学薬学部公衆衛生学教室 助手
2001年 国立医薬品食品衛生研究所 環境衛生化学部 非常勤職員
2006年 国立医薬品食品衛生研究所 生活衛生化学部 主任研究官
2015年 横浜薬科大学薬学部 教授
2022年 横浜薬科大学薬学部 健康薬学科長

所属学会

日本薬学会、日本毒性学会（評議員）、日本室内環境学会（評議員）

社会活動

厚生労働省 シックハウス（室内環境汚染）問題に関する検討会 構成員
厚生労働省 薬事審議会 化学物質安全対策部会員
内閣府 食品安全委員会 汚染物質等専門調査会 専門委員